

公表

事業所における自己評価総括表 (南草津教室)

○事業所名	放課後等デイサービス辻義塾 南草津教室			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 11日		～	2026年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～	2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動に力を入れており、事業所内での子ども同士の関係性構築だけでなく、地域の子どもの輪に入ることを想定して遊び方や関わり方の練習を行い、事業所から地域への般化を意識した支援を行っている。	自由遊びの時間にはあえて職員が一步引いた位置から見守りを行い、子どもだけで遊びを考え展開させることができるよう環境作りを行っている。また、自分から関わることが苦手な子には職員が介したり、相性の良い子と小グループを作って活動場面を設定するなど関わりを増やす工夫を行っている。	地域との関わりとして、公園や科学館などの公共施設を利用した活動を積極的に行い、地域の子どもらと関わる機会を設ける。また、他事業所との連携を行い、合同イベントなどを通じて交友関係を広げたり、大人数の中で過ごす機会を設けていく。
2	人員配置が充実しており、看護師、理学療法士、教員、保育士など、専門資格を要する職員も充実している。また、事業所内での研修実施や、外部の研修会への参加を促すなど、職員のスキル向上を図っている。	全ての職員が利用者の状況や支援について理解し、常に情報を正しく共有できるよう、カンファレンスやミーティングの機会を増やしている。	今年度は外部のAIツールを導入し、より詳細な標準化されたアセスメントツールが利用できるようになったため、今後はこのツールを活かして、職員のスキルアップと支援の質向上を図っていく。
3	家庭連携・関係機関連携を積極的に実施している。保護者や利用者向けに公式LINEを導入し、気軽に連絡や相談ができる体制を取っている。また、積極的に相談支援や学校、他事業所との情報共有を行い、特に新1年生の受入れに関しては相談支援だけでなく、こども園や児発の訪問を行い丁寧な情報収集を行っている。	モニタリング時期には積極的に相談支援員に来所いただき、実際の療育現場を見てもらうなどより密な情報共有を心がけている。また、利用者の困りごとが発生した際には必要に応じて関係機関に連絡し、特に不登校傾向の利用者に対しては学校との情報共有や連携を丁寧に行っている。	学校によっては直接の連携を断られてしまうケースもあり、どうすれば学校側にも受け入れてもらえるのか検討中で、教育委員会や発達支援課、障害福祉課などへの相談もやっている。次年度は草津市で午前五時間制が始まることもあり、学校との連携がスムーズに行えるよう、各学校に合わせた対応を検討している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	低学年の療育に関しては経験不足の部分がある。	元々中高生を対象に開業した事業所であり、小学1年生からの低学年受入れは4年前に新設したため、今年度でやっとジュニアクラス(1~4年)が揃った状態。今まで橋岡教室でやってきた療育活動などを一から見直し、試行錯誤しながら取り組んできた。	今年度は外部のAIツールを導入し、発達段階・年齢に合わせたより詳細なアセスメントや目標設定ができるようになった。今後も研修やツールを活用し職員のスキルアップを図るとともに、児発との連携を積極的に進めていきたい。
2	低学年の利用者が増えたことで、クラス編成や進級の難しさが出てきている。	現在、小学低学年のジュニアクラス、小学高学年の南草津クラス、中年の橋岡クラスの3クラス編成で進級形式を取っているが、開設当初の予想を上回る利用者数となり、低学年の人数が増えたことで、予定していたクラス編成の基準に合わない状況になっている。	クラス編成や進級基準の見直しが必要。ジュニア・南草津クラスでの療育が順調に進み、地域学校での過ごしが安定することで中学では部活に所属し放デイに通う時間がなくなる、というケースも多々生じており、橋岡クラスも含めての長期的な見直しを立てて見直しを行っていく。
3	現在公開されているホームページの情報が更新できておらず、各種マニュアルなどの公開もできていない。	現在ホームページの見直し作業中であり、来年度中にはリニューアルを終わらせ、各種マニュアルなど必要な情報の公開も合わせて行う予定ではあるが、ホームページの作成管理を行っていた職員が退職したことにより、専門知識が不足し手が回らなくなっている。	新たな担当者を決め、ホームページ管理についての技術を勉強中である。現状担当者が一人だけになってしまっているため、サポート役をつけるなど関わる職員を増やしていく必要あり。